

## 資料1 合格者の意識

1. 合格しての気持ち		元年(1年生)
(1) うれしい		98.4%
(2) うれしくない		0.0
(3) どちらともいえない		1.6

2. 好間高校を受験したのは	
(1) 自分から進んで すすんで	81.8
(2) 親のすすめで	3.6
(3) 先生のすすめで	14.6
(4) 友達がくるので	0.0
(5) その他	0.0

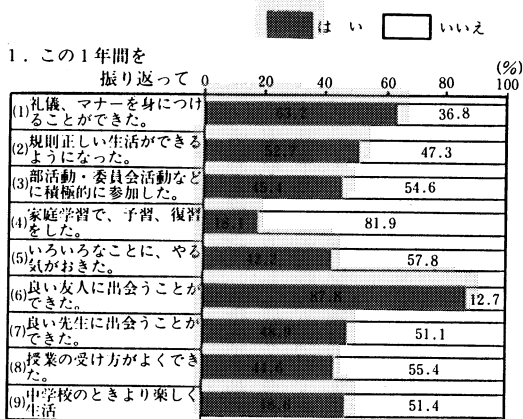
  

3. 入学してからやってみたいこと	
(1) 勉強	39.6
(2) 運動関係の部活動	45.3
(3) 運動以外の部活動	6.8
(4) 特別なことをしたいと思っていない	5.2
(5) なんにもやりたくない	0.0
(6) その他	3.1

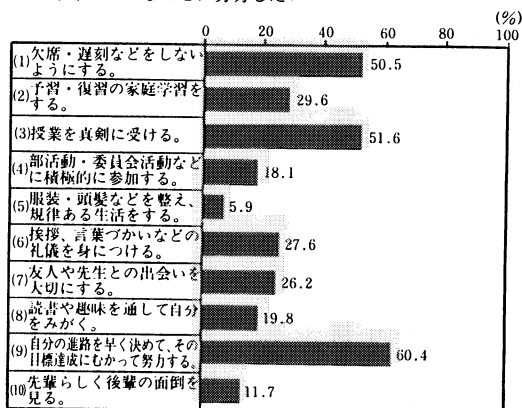
  

4. こんな好間高校生になりたい	
(1) 真面目で自覚のある高校生	23.4
(2) 普通にやれる平凡な高校生	16.7
(3) 規則を守り礼儀正しい高校生	13.0
(4) 明るく、優しい思いやりのある高校生	25.5
(5) 勉強と運動に頑張れる高校生	21.4
(6) 特になし	0.0
(7) 無回答	0.0

## 資料2 1. 2年修了者の意識



## 3. 来年はどんなことに努力したい



いることがわかる。

○「先生のすすめで」受験した生徒が増えたことは、生徒の自主性のなさを思わせるが、反面本校に対する中学校の先生方の評価が、高まっていることの現れであろう。

○「入学してからやってみたいこと」として、スポーツが四十五・三パーセント、勉強が三十九・六パーセントを占めている本校の運動部に寄せる期待の大きさを示しているようである。

## 2 一・二年修了者について

一・二年の三学期末のLHR時に、生徒の成長の度合い、本校での生活の満足度、次年度の抱負などについて

て意識調査をし、一年間の生徒の姿を確認した結果が資料2(昭和63年度実施結果を中心にまとめたもの)である。

○本校生は、良い友人に恵まれ(八十七・八パーセント)礼儀を守り、規則正しい生活を送っているなど、生活面では、各項目にかなりの改善が図られている。

○また、学校生活や先生に対しては、約半数が適応し、本校生の明るい生活の一端をのぞかせている。

一方、学習面については、授業の受け方はかなり改善されたが、家庭での予・復習については特に改善の必要があり、この点については、生

徒自身も次年度の大きな目標としてとらえ、真剣な授業態度の必要を五十一・六パーセントが、家庭学習の必要を二十九・六パーセントが、それぞれ強く意識している。今後いっそう自主的な学習態度の確立を図っていかねばならない。

○昭和五十九年度当時、本校の中途退学者数は多く、生徒もあまり期待を抱かず入学していた。しかし、小規模校のため、指導が細やかで行き届き、中学校であまり目立たなかった生徒も本校の教師と親しく接することができた。また、いじめ、暴力に対しては、きめ細かな指導を行った。そのようなことから昭和五十九年度から六十一年度にかけて在学し

た生徒は高い満足感を示したと言える。一方、昭和六十三年度の一・二年生は、本校に対する地域からの評価も高まり、入試志願者の倍率も特に高い時期に入学したため、本校に対し初めから強い期待感を持っていた。しかし、服装・頭髪等の指導は厳しく、授業のエスケープ、怠けなども見逃がされなかったのが、自由な生活に憧れを抱いていたのがままならず、それが不満へとつながる生徒の例も見られた。今後は指導体制を緩めるのではないまでも、生徒の自律性に任せた生活指導をより工夫する必要がある。

○次年度の努力目標として、ほぼ六割の生徒が、進路の早期決定と、その